

# 平成29年度 編入学・学士入学試験

## 専門科目 : 経済学 (近代経済学系)

次の三つの問題すべてに解答しなさい。

[1] 以下の経済モデルが考えられているとする。次の各問に答えなさい。

$$\text{所得均衡式: } Y = C + I + G + NX$$

$$\text{消費関数: } C = c_0 + c_1(Y - T) = 46 + 0.5(Y - T)$$

$$\text{投資関数: } I = d - \beta \cdot r = 90 - 6r$$

$$\text{貨幣需要関数: } L = kY + (l_0 - l_1 r) = 0.2Y + (425 - 5r)$$

$$\text{実質貨幣供給量: } M/P = 500 \text{ 兆円}$$

- (1) ここで、政府支出 $G$ は80兆円、貿易収支 $NX$ は30兆円である。また、所得税は所得の一定割合を徴収されるという定率税を採用し、 $T = 0.2Y$ であるとする。その他、名目利子率と実質利子率に違いがないケースを扱っていることに留意してほしい。この場合、均衡国民所得と均衡利子率はいくらになるかを求めなさい。
- (2) 中央銀行が実質貨幣供給量を3.5兆円だけ増加させる政策を行ったとする。この場合、均衡利子率と均衡国民所得はどのようになるかを求めなさい。

[2] 大問[1]で起こっていることをIS-LM曲線(横軸に国民所得、縦軸に金利とした図)を用いて具体的に述べなさい。また、金利が低くなり過ぎた結果、 $l_1 = \infty$ である場合、どのような政策が有効であるかを同じようにIS-LM曲線を用いて具体的に説明しなさい。

[3] 財1の消費量を $x_1$ 、財2の消費量を $x_2$ とする。ある消費者は一定の所得のもとで、効用 $u = x_1 x_2$ を最大化すると想定する。このとき、以下の問すべてに答えなさい。

- (1) 財1の価格が400、財2の価格が200、所得が2400であるとき、この消費者の効用を最大にする財1と財2の消費量の組合せを求めなさい。
- (2) 財2の価格と所得は(1)の値のまま、財1の価格が変化した状況を考える。このとき、この消費者の効用を最大にする財1の消費量が12であるとする、変化後の財1の価格を求めなさい。また、この消費者の効用を最大にする財2の消費量も求めなさい。
- (3) 財1の価格と財2の価格は(2)の値のまま、所得がある水準にまで減少したところ、最大化されたこの消費者の効用水準は(1)のそれと同水準となった。このときの財1と財2の消費量の組合せを求めなさい。また、変化後の所得水準を求めなさい。